



広報

1998
平成10年

7.1

No.1037

こしがや

発行／越谷市 343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号 ☎0489(64)2111 FAX0489(65)6433 編集／広報広聴課



越谷市民憲章

わたくしたちは、越谷市民であることに誇りと責任を持ち、水と緑と太陽に恵まれた豊かなまちを築くため、限りない願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

- 教養を豊かにし、人間性あふれる文化のまちをつくります。
- さまわりを守り、信じあい、心豊かな明るいまちをつくります。
- 自然を愛し、お互いに助けあい、きれいなまちをつくります。
- 健康で楽しく働き、明るいスポーツのまちをつくります。

紫のじゅうたん・ラベンダー畠

「梅雨の晴れ間、不動橋から吉川方面に向かって元荒川右岸の土手を歩いてみました。川風がほほに心地良く感じます。もう少しで中島橋という所、さわやかな花の香りに誘われ右手を見ると、紫色のラベンダー畠が一面に広がっています」。

1

30万物語
The Story of One-Thousand-thousandth

人口30万都市の鼓動
それは1人ひとりが織り成すドラマです。

今号の主な内容

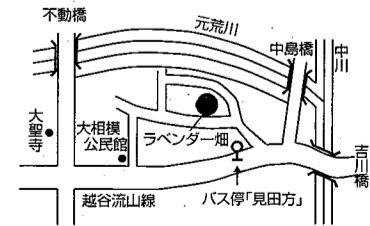
農業技術センター	23
7月1日オープン	
6月議会が開かれました	4
児童館夏のイベント	5
夏休み子ども図書案内	
催しご案内、施設ガイド、 ふれあいラウンジ タウ ン情報（お知らせバック ～この指とまれ～）	6 7
公民館コーナー、コミ協 ふれあいだより、行って みたいなどなりまち	8
こどもコーナー	9
健康と暮らし	10
こんにちはすこやかさん、 ホームドクター	11
まちのわだい、ズーム アップ、市政トピックス	12



▲7月4日・5日の土曜・日曜には摘み取りもできます▼



6月20日の摘み取り風景



元荒川旧堤防沿いに桜並木を植樹し育てている大相模地区的飯島桜並木保存会（豊田正雄会長）では、使わなくなつた煙にラベンダーまつを植え、ラベンダーまつを開催しています。5年前、「桜よりも長い期間」楽しめる花はないだろうか」と考えたのがきっかけで、葛蒲町の方から分けてもらつた苗を20株植えました。以後、宇田光男事務局長を中心して育てた株は2万株以上にもなっています。昨年

なります。今年も6月20日から始まつた摘み取りには多くの方が訪れ、たいへん好評です。7月4日と5日（日）の午前9時～午後4時とも行われます。摘み取れるのは一人につき封筒1袋（300円）のみ。会場へは越谷駅東口から東武バス吉川車庫行きに乗り、「見田方」下車。市役所から越谷流山線を吉川方面へ向かって約4キロ。

飯島桜並木保存会
花を大切に育て、ラベンダーまつりを主催する

から摘み取りを楽しんで、もうおうと、畠を開放しています。

スマップ

21世紀に向けたまちづくり

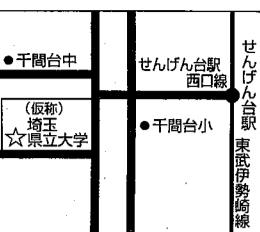
(仮称)埼玉県立大学 保健・医療・福祉の充実を目指す

市内三野富地内で、平成11年4月の開学を目指し、「(仮称)埼玉県立大学」の建設工事が進められています。

この大学は、本格的な高齢社会を支えていくうえで、保健・医療・福祉の分野で指導的、教育的な役割を果たすことのできる人材を育てることを目的に設置されます。



建設が進む(仮称)埼玉県立大学

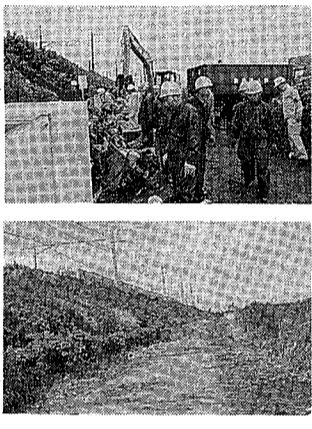


周辺の静かな住宅地や後方に広がる豊かな田園地帯に調和するよう建物の設計を、緑の小高い丘をイメージしたものにしています。地域への公開講座等を行う研究・研修センターなどが設置される予定です。

市政トピックス

●不法投棄物を一斉撤去●

6月14日、大相模、川柳地区にかかるレイクタウン予定地を中心に行なった不法投棄された廃棄物の一斉撤去が行われました。市、県、警察、(社)埼玉県産業廃棄物協会が実施したもので、捨てられていた自動車、建設廃材、家電製品などの不燃物や、生ごみ、紙くずなどの可燃物は、それぞれ資源化センターや東部清掃組合に運ばれました。今後は、防護柵の設置や監視パトロールを行う予定です。



●市長、市議会がインドおよびパキスタンの核実験に対し抗議

インドとパキスタンの相次ぐ核実験に対し、板川文夫市長は「核実験を廃絶し世界平和実現のための抗議文」を5月19日に印度、5月29日にパキスタンの各大使館に送りました。また、市議会では6月1日に「印度及びパキスタンの核実験実施に抗議し、核兵器廃絶を求める決議」を可決し、同日、日本政府並びに両大使館に決議文を送りました。

●6月は「越谷市・地球にやさしい月間」●

市では、環境週間のある6月を、「越谷市・地球にやさしい月間」として、普及啓発事業を行っています。

8日~30日には、市役所ロビーで平成9年度に行なわれた「ふるさといきもの調査」の中間結果の集計が展示されました。

また、12日には、「地球環境を考える体験ツアー」が行われ、24日には、サンシティで「子ども環境サミット」が開かれました。

テレビ埼玉 いきいき 越谷

放送日
7月19日(日)
午後9時30分~50分
再放送
7月20日(祝)
午前8時00分~20分
*7月の放送は高校野球中継のため上記のとおり時間が変更となります
ご意見、ご感想をお寄せください。
問合せ
広報広聴課広報係

NACK5 79.5FM
毎週水曜日、午後4時20分ごろにFM埼玉で越谷市の30秒スポットを放送します。

社会人や女性、高齢者など、市民の皆さんか「いつでも、どこでも、だれでもが」学べる生涯学習を紹介する予定です。

*放送を収録したテープ(前月分まで)が市立図書館にあります。ご利用ください

まちのわだい

タウンビート

TOWN BEAT

人口30万都市の動向
それは一人ひとりが織り成すドラマです

このコーナーでは、自治会活動のニュースや皆さんの身近に起きた楽しい話を募集しています。写真に簡単な文章をつけて



編集室の話題は何といつてもサッカーのワールドカップ。ふだんは野球派のわたしも、にわかサポーターになつての応援でした。残念ながら決勝トーナメントへの進出はなりませんでしたが、今回の経験は次につながることでしょう。いよいよ4年後の2002年は日本韓国のW杯共同開催。埼玉県での決勝戦開催も夢ではありません。みんなで誇り運動を盛り上げていきたいのです。(1)



あすの越谷について話し合いました。あすの越谷が豊かで活力あふれるまちになるよう、共に考える機会として開催されたものです。

当日は「あすに向けたまちづくり」というテーマで、基調講演とパネルディスカッションが行われ、参加した人は熱心に聞いていました。

体になり、あすの越谷が豊かで活力あふれるまちになるよう、共に考える機会として開催されたものです。

そこで、市民と行政が一体になり、あすの越谷が豊かで活力あふれるまちになるよう、共に考える機会として開催されたものです。



子どもたちと語りあう佐ノ山親方

関小錦を迎えて、「ギヨロ目でにらんだ日本の子供」というテーマで、夢を求める子どもたちへ熱いメッセージを語ってくれました。

親方は、現役時代にケガや病気、国際問題など多くの試練を乗り越えてきた

親努力家で、また明るくユニークな性格を持ちます。

親方の人気の高さから、当日はたくさんの方々が訪れ、ユーモアを交えた話に熱心に聞き入っていました。



リформで新しいものができました

家庭から持ち寄ったネクタイが、それぞれ個性あるボンエッグに驚きと感激を感じました。植竹トに変身し、会場は驚きと感激にわきました。

参加した植竹きく江さんは、「ゴミを減らすことや、大切な物を作り直すこと、心が潤うことなどがうれしいですね」と話してくれました。

古来より伝わる木遣歌などを運ぶときの作業歌として発生し、越谷では現在、宴席や久伊豆神社の祭礼などで歌われています。

木遣歌は、元来木材などを運ぶときの作業歌として文化遺産として次の世代へ残したい、という気持ちから保存会が設立され、15年になる。

今では、子どもたちもたくさん参加し、良い後継者として順調に育つているのが、とてもうれしいです。

保存会には約50人の会員と約20人の子ども会員が所属し、毎週1回、世代をこえて木遣歌の練習をしている。

子どもたちは、学生やクラスに関係なく、友達付き合いをしているようです。また、木遣歌の練習の後はおなかがすいてご飯がおいしく食べられるので、良い健康法でもあるんです。

を豊かなまちを目指し、まちづくりフォーラム中央市民会館で開催

創立25周年記念で越谷青年会議所講演会

関小錦を迎えて、「ギヨロ目でにらんだ日本の子供」というテーマで、夢を求める子どもたちへ熱いメッセージを語ってくれました。

6月24日、中央市民会館で、昨年に続いて2回目のリフォーム講座が開催されました。これは、着られない洋服や、思い出深

いものを、もう一度手を加えることによって生活に生かし、ものの大きさを知つてもらうために開かれたものです。

家庭から持ち寄ったネクタイが、それぞれ個性あるボンエッグに驚きと感激を感じました。植竹トに変身し、会場は驚きと感激にわきました。

参加した植竹きく江さんは、「ゴミを減らすことや、大切な物を作り直すこと、心が潤うことなどがうれしいですね」と話してくれました。

古来より伝わる木遣歌などを運ぶときの作業歌として文化遺産として次の世代へ残したい、という気持ちから保存会が設立され、15年になる。

今では、子どもたちもたくさん参加し、良い後継者として順調に育つているのが、とてもうれしいです。

保存会には約50人の会員と約20人の子ども会員が所属し、毎週1回、世代をこえて木遣歌の練習をしている。

子どもたちは、学生やクラスに関係なく、友達付き合いをしているようです。また、木遣歌の練習の後はおなかがすいてご飯がおいしく食べられるので、良い健康法でもあるんです。

財「越谷の木遣歌」の保存会長で「木遣保存会十五周年記念公演」を開催した高橋 奕さん(越ヶ谷本町)

越谷市ホームページをご覧ください。アドレスはhttp://www.city.koshigaya.saitama.jp